

IT運用の自律化へ、進化し続ける「JP1」

1月に提供を開始した統合システム運用管理「JP1」の最新版「JP1 V12.1」は、IT運用業務のさらなる負荷軽減と、業務手順の可視化によるRPA*導入の全社展開を促進するための機能を強化。深刻化するデジタル人財不足などに対応すべく、人に依存しないインテリジェントなIT運用を追求しました。

※ Robotic Process Automation

さらなる業務負荷軽減と自動化へ向け各機能を強化

IT環境全体の可視化やRPA連携による業務プロセスの自動化を促進する「JP1 Version 12」の最新版となる「JP1 V12.1」では、業務実行の停滞状況を自動的に検知する機能のほか、業務を実行するインフラの稼働状況を統合運用の画面上に表示する機能を提供しました。これにより、業務停止リスクを早期に把握して事前回避することや、オンプレミスとマルチクラウドが混在する環境のもとで、複雑化する各種業務システムを集中管理することが可能になり、障害対応の負荷を軽減します。

さらにJP1 V12.1ではRPAによる業務自動化に関連する機能を強化。RPA化のボトルネックとなる人手による確認・判断部分も含めた一連の業務手順をフローチャート化し、各ステップの作業手順書をPC画面上で確認できるようになりました。こうしてRPAによるPC作業の自動化を含む一連の業務手順を可視化・標準化することで既存の業務を効率化し、RPAの全社展開を支援します。

インテリジェントなIT運用をめざして

急速なテクノロジーの進化と普及に呼応するようにITシステムが複雑化・多様化するなかで求められるのは、深刻な人財不足や業務負荷の増大を解決し、人間に依存しないインテリジェントなIT運用です。JP1はシステム上の膨大かつ多種多様なデータと、その複雑な関係性を統合的に管理するとともに、熟練エンジニア

のナレッジや経験則なども取り込みながら、IT運用の自律化を加速させてきました。

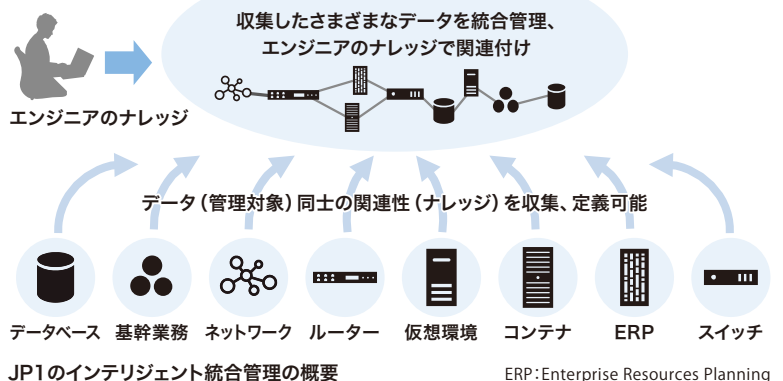
さらにその先にめざすのは、事業環境やビジネスの多様な変化にも自動適応する究極のIT運用。AIと融合し、最終的にはJP1が運用担当の一人としてIT運用を支え、人は、人にしかできないワンステージ上の業務に専念できるような「NoOps」の実現をめざして、今後も日立はJP1で企業の成長に不可欠なデジタル変革をサポートし続けます。

- IT環境全体の運用データを一元管理・可視化
- システムで発生する事象（イベント）とインフラ情報など各種データを関連付け



統合オペレーション・ビューアー

インテリジェント統合管理 JP1/Integrated Management2



お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部 アプリケーションクラウドサービス事業部
<https://www.hitachi.co.jp/jp1/>

